

# 平成 16 年中の札幌市の人口動態（住民基本台帳による）

## 1. 概況

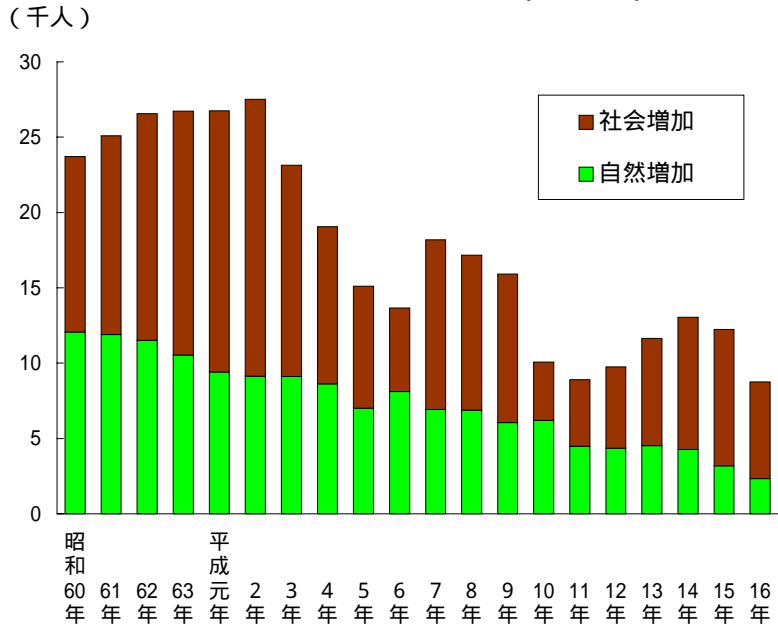
平成 16 年中の人口増加は 8,748 人（第 1 表、第 1 図）

住民基本台帳による平成 16 年中の人口増加は 8,748 人で前年(12,245 人)を 3,497 人下回った。人口増加規模について、ここ数年の推移をみると、7 年の 18,177 人から 11 年の 8,900 人まで縮小が続いた後、12 年から 14 年の 13,049 人まで拡大が続いたが、15 年から再び縮小し、16 年は 8,748 人と、政令指定都市となった昭和 47 年以降で最も規模が小さくなった。

人口増加を自然増加（出生 - 死亡）と社会増加（転入 - 転出）に区分し、ここ数年の推移をみると、自然増加は、14 年以降は縮小を続け、16 年は 2,336 人となった。一方、社会増加は、11 年以降は拡大が続いていたが、16 年は 6,412 人と、前年(9,062 人)に比べて

大幅に縮小した。人口増加に占める自然増加と社会増加の割合についてみると、11 年には自然増加(50.4%)と社会増加(49.6%)はほぼ同じであったが、その後は社会増加の割合が上昇し、16 年は自然増加が 26.7%、社会増加が 73.3%で、社会増加の割合が 7 割を超えている。

第 1 図 自然増加及び社会増加の推移（各年中）



注：住民基本台帳による数値であり、社会増加には区間移動及び職権等による増減を含む。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

第 1 表 人口動態の推移

住民基本台帳による。

年次	人口動態			割合 (%)		
	人口増加	自然増加	社会増加 1)	人口増加	自然増加	社会増加 1)
昭和 60 年	23,716	12,073	11,643	100.0	50.9	49.1
昭和 61 年	25,082	11,893	13,189	100.0	47.4	52.6
昭和 62 年	26,550	11,507	15,043	100.0	43.3	56.7
昭和 63 年	26,728	10,530	16,198	100.0	39.4	60.6
平成 元年	26,753	9,419	17,334	100.0	35.2	64.8
平成 2 年	27,520	9,145	18,375	100.0	33.2	66.8
平成 3 年	23,146	9,114	14,032	100.0	39.4	60.6
平成 4 年	19,055	8,634	10,421	100.0	45.3	54.7
平成 5 年	15,113	7,015	8,098	100.0	46.4	53.6
平成 6 年	13,666	8,112	5,554	100.0	59.4	40.6
平成 7 年	18,177	6,921	11,256	100.0	38.1	61.9
平成 8 年	17,169	6,875	10,294	100.0	40.0	60.0
平成 9 年	15,909	6,052	9,857	100.0	38.0	62.0
平成 10 年	10,080	6,207	3,873	100.0	61.6	38.4
平成 11 年	8,900	4,489	4,411	100.0	50.4	49.6
平成 12 年	9,754	4,361	5,393	100.0	44.7	55.3
平成 13 年	11,635	4,533	7,102	100.0	39.0	61.0
平成 14 年	13,049	4,273	8,776	100.0	32.7	67.3
平成 15 年	12,245	3,183	9,062	100.0	26.0	74.0
平成 16 年	8,748	2,336	6,412	100.0	26.7	73.3

注：1) 区間移動及び職権等による増減を含む。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

## 2. 自然動態

平成 16 年中の出生数は 14,750 人で前年を 121 人下回った（第 2 表、第 2 図）

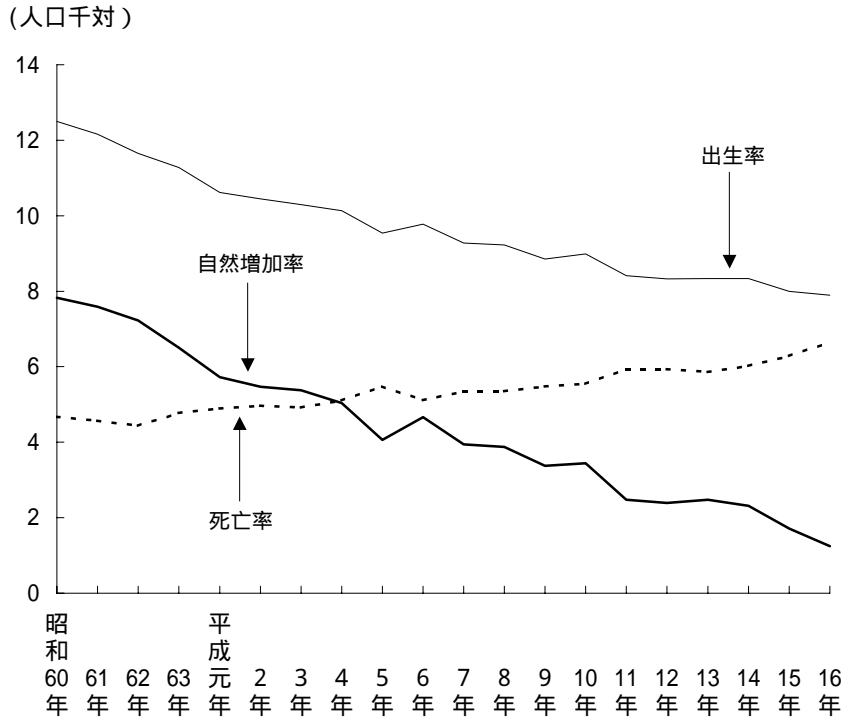
平成 16 年中の自然動態をみると、出生数は 14,750 人で前年（14,871 人）を 121 人下回り、昭和 47 年以降で最小となった。また、死亡数は 12,414 人と前年（11,688 人）を 726 人上回った。

自然動態の推移を人口千人当たりの比率でみると、出生率（人口千人当たりの出生数）は、昭和 60 年以降は概ね低下傾向を示し、平成 16 年は 7.9 になった。

死亡率（人口千人当たりの死亡数）は、昭和 63 年以降に上昇傾向を示し、平成 16 年は 6.6 で前年（6.3）より 0.3 ポイント上昇した。

人口千人当たりの自然増加の比率は 10 年まで低下傾向を続けた後、11～14 年は 2.3～2.5 でほぼ一定であった。しかし、15 年は 1.7 となって 2.0 を割り、16 年は 1.3 で前年よりさらに 0.4 ポイント低下した。

第 2 図 出生率、死亡率及び自然増加率の推移（各年中）



注： 住民基本台帳による数値であり、国勢調査人口及び推計人口（各年10月1日現在）を用いて比率を算出している。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

第 2 表 自然動態の推移

住民基本台帳による。

年次	自然動態			比率（人口千対） <sup>1)</sup>		
	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡
昭和 60 年	12,073	19,288	7,215	7.8	12.5	4.7
昭和 61 年	11,893	19,052	7,159	7.6	12.2	4.6
昭和 62 年	11,507	18,569	7,062	7.2	11.7	4.4
昭和 63 年	10,530	18,261	7,731	6.5	11.3	4.8
平成 元年	9,419	17,468	8,049	5.7	10.6	4.9
平成 2 年	9,145	17,459	8,314	5.5	10.4	5.0
平成 3 年	9,114	17,446	8,332	5.4	10.3	4.9
平成 4 年	8,634	17,379	8,745	5.0	10.1	5.1
平成 5 年	7,015	16,483	9,468	4.1	9.5	5.5
平成 6 年	8,112	17,016	8,904	4.7	9.8	5.1
平成 7 年	6,921	16,306	9,385	3.9	9.3	5.3
平成 8 年	6,875	16,367	9,492	3.9	9.2	5.3
平成 9 年	6,052	15,859	9,807	3.4	8.9	5.5
平成 10 年	6,207	16,216	10,009	3.4	9.0	5.5
平成 11 年	4,489	15,246	10,757	2.5	8.4	5.9
平成 12 年	4,361	15,182	10,821	2.4	8.3	5.9
平成 13 年	4,533	15,277	10,744	2.5	8.3	5.9
平成 14 年	4,273	15,382	11,109	2.3	8.3	6.0
平成 15 年	3,183	14,871	11,688	1.7	8.0	6.3
平成 16 年	2,336	14,750	12,414	1.3	7.9	6.6

注： 1) 「比率」算出に用いた人口は、国勢調査人口及び推計人口（各年10月1日現在）である。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

### 3. 社会動態

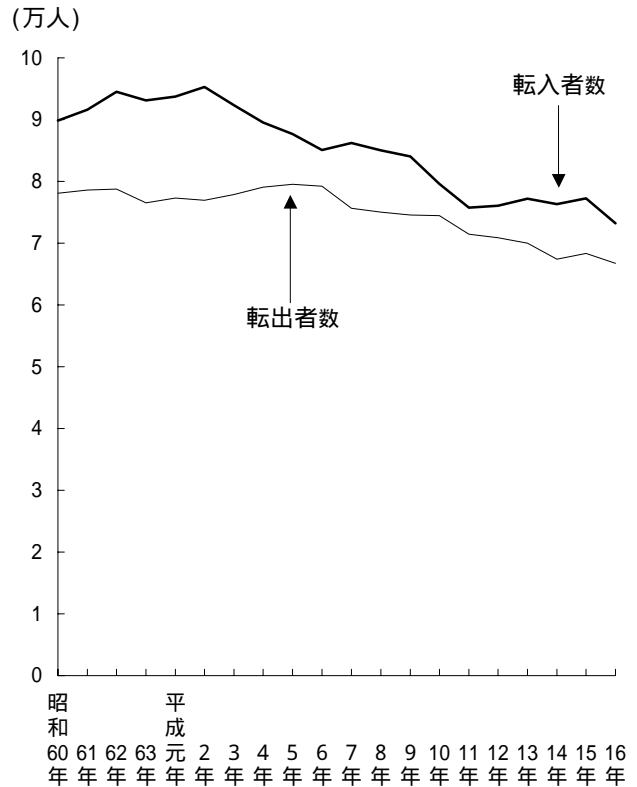
平成 16 年中の転入超過数は 6,506 人で前年(8,929 人)を 2,423 人下回る(第 3 表、第 3、4 図)

平成 16 年中の社会動態をみると、市外から札幌市への転入者数は 73,219 人で前年(77,258 人)を 4,039 人下回った。転入者数の推移をみると、2 年の 95,301 人をピークとして減少傾向を示し、11 年は 75,735 人になった。その後 12~15 年は 7 万 7 千人前後で推移したが、16 年は大きな減少を示した。

市外への転出者数は 66,713 人で、前年(68,329 人)を 1,616 人下回った。最近の推移をみると、7~10 年にかけては 7 万 5 千人前後で推移した後、11 年以降は減少傾向が続いている。

市外との転入超過数(転入者数 - 転出者数)をみると、6,506 人の転入超過となっており、前年(8,929 人)を 2,423 人下回った。最近の推移をみると、転入超過規模は 8 年以降縮小が続き、11 年の 4,309 人を底として 12 年以降は拡大が続いていたが、16 年は縮小に転じている。

第 3 図 転入・転出者数の推移  
(各年中)



注：住民基本台帳による。  
<資料> 企画調整局企画部企画調査課

第 3 表 道内・道外別転入・転出者数の推移

住民基本台帳による。

年次	転入者数			転出者数			転入超過数		
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外
昭和 60 年	89,838	63,610	26,228	78,106	44,582	33,524	11,732	19,028	7,296
61 年	91,605	64,766	26,839	78,588	43,258	35,330	13,017	21,508	8,491
62 年	94,509	67,460	27,049	78,766	43,193	35,573	15,743	24,267	8,524
63 年	93,091	65,160	27,931	76,532	42,728	33,804	16,559	22,432	5,873
平成 元年	93,726	64,873	28,853	77,301	43,655	33,646	16,425	21,218	4,793
2 年	95,301	64,397	30,904	76,966	43,253	33,713	18,335	21,144	2,809
3 年	92,320	61,057	31,263	77,871	45,321	32,550	14,449	15,736	1,287
4 年	89,557	57,985	31,572	79,045	46,722	32,323	10,512	11,263	751
5 年	87,659	56,532	31,127	79,529	47,882	31,647	8,130	8,650	520
6 年	85,052	54,440	30,612	79,248	49,008	30,240	5,804	5,432	372
7 年	86,238	54,691	31,547	75,629	45,480	30,149	10,609	9,211	1,398
8 年	85,017	54,143	30,874	75,015	44,146	30,869	10,002	9,997	5
9 年	84,038	53,625	30,413	74,560	42,949	31,611	9,478	10,676	1,198
10 年	79,563	49,700	29,863	74,464	40,503	33,961	5,099	9,197	4,098
11 年	75,735	47,380	28,355	71,426	39,422	32,004	4,309	7,958	3,649
12 年	76,059	48,348	27,711	70,882	38,804	32,078	5,177	9,544	4,367
13 年	77,180	48,789	28,391	69,994	36,952	33,042	7,186	11,837	4,651
14 年	76,296	48,189	28,107	67,422	36,347	31,075	8,874	11,842	2,968
15 年	77,258	49,237	28,021	68,329	36,447	31,882	8,929	12,790	3,861
16 年	73,219	46,116	27,103	66,713	35,280	31,433	6,506	10,836	4,330

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

社会動態を道内・道外別にみると、道内については、16年中の転入者数は46,116人で前年(49,237人)を3,121人下回った。推移をみると、昭和62年(67,460人)をピークとして減少傾向を示し、平成11年は47,380人まで減少した。その後、12～15年は4万8千人前後で推移したが、16年は46,116人に減少した。

道内への転出者数は35,280人で前年(36,447人)を1,167人下回った。最近の推移をみると、6年の49,008人をピークに減少していたが、13年以降は3万6千人前後で推移している。

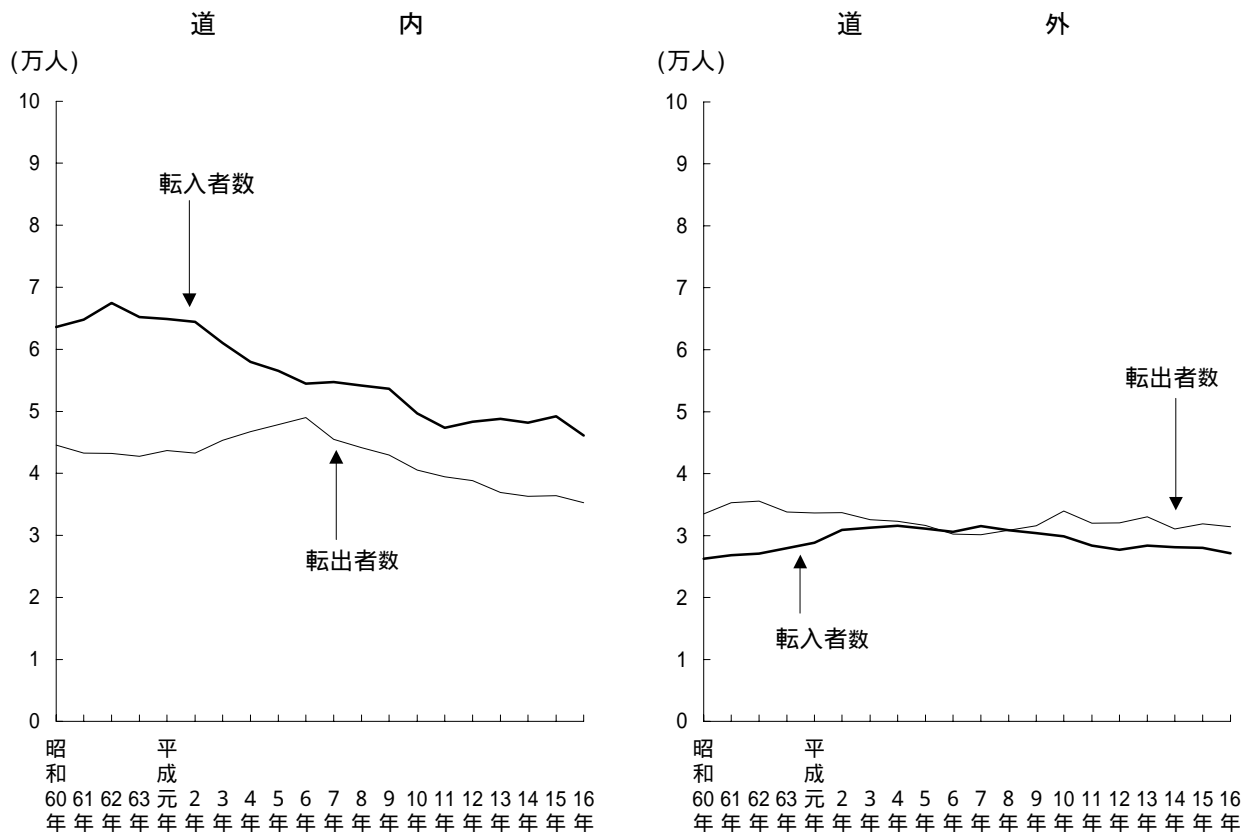
道内との関係では、常に転入超過の状態が続いており、16年は10,836人の転入超過で前年(12,790人)を1,954人下回った。最近の推移をみると、5～12年は9年を除き1万人を割っていたが、13年以降は1万2千前後で推移し、16年は10,836人に縮小した。

道外については、16年中の転入者数は27,103人で前年(28,021人)を918人下回った。推移をみると、2～9年にかけては3万1千人前後で推移していたが、10年には3万人を割り、11年以降は2万8千人前後で推移している。

道外への転出者数は31,433人で前年(31,882人)を449人下回った。最近の推移をみると、5～9年は3万～3万1千人台で推移していたが、10年には33,961人と増加を示した。その後、11年、12年は3万2千人程度で推移し、13年には33,042人に増加したが、14年以降は3万1千人台となっている。

道外との関係では16年は4,330人の転出超過で前年の転出超過数(3,861人)を469人上回った。最近の推移をみると、6～8年には転入超過であったが、9年以降は転出超過が続いている。

第4図 道内・道外別転入・転出者数の推移  
(各年中)



注：住民基本台帳による。  
<資料> 企画調整局企画部企画調査課

#### 4. 道内地域別転入・転出者数

16年中の「周辺5市と石狩郡部」との転出入は再び転入超過となった（第4表）

道内を「主要8市」（函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市、苫小牧市）、「周辺5市と石狩郡部」（江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、厚田村、浜益村）、「その他の市部」及び「その他の郡部」の4地域に分けて、平成16年中の転入者数、転出者数、転入超過数をみてる。

転入者数をみると、「主要8市」からが19,003人と最も多く、以下、「その他の郡部」が11,062人、「周辺5市と石狩郡部」が8,181人、「その他の市部」が7,870人となっており、前年と比べると、「周辺5市と石狩郡部」では若干増加しているものの、他の3地域では減少した。

転出者数をみると、「主要8市」へが14,190人と最も多く、以下、「周辺5市と石狩郡部」が8,170人、「その他の郡部」が7,728人、「その他の市部」が5,192人となり、前年と比べると、全ての地域で減少した。

転入超過数をみると、「主要8市」が4,813人と最も多く、以下、「その他の郡部」が3,334人、「その他の市部」が2,678人、「周辺5市と石狩郡部」が11人と続いている。前年と比べると、「主要8市」、「その他の市部」及び「その他の郡部」の転入超過規模は縮小している。「周辺5市と石狩郡部」は、13年まで転出超過が続いていたが、14年に初めて転入超過となった。15年は転出超過となったものの、16年は再び転入超過に転じている。

第4表 道内地域別転入・転出者数の推移

住民基本台帳による。

年次	総数	主要8市 1)	周辺5市と石狩郡部							各年中	
			総数	江別市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	石狩郡部 2)	その他の市部	その他の郡部 3)
平成11年	47,380	20,322	7,795	2,362	1,245	816	1,240	1,458	674	8,116	11,147
12年	48,348	20,414	8,202	2,378	1,290	1,028	1,369	1,478	659	8,200	11,532
13年	48,789	20,783	8,090	2,353	1,278	926	1,359	1,547	627	8,407	11,509
14年	48,189	20,565	8,152	2,368	1,338	964	1,440	1,383	659	8,113	11,359
15年	49,237	20,901	8,171	2,481	1,289	922	1,362	1,474	643	8,460	11,705
16年	46,116	19,003	8,181	2,512	1,341	927	1,255	1,473	673	7,870	11,062
			転出者数								
平成11年	39,422	15,602	9,208	2,933	1,132	766	1,856	1,841	680	5,941	8,671
12年	38,804	15,547	8,864	2,522	1,251	841	1,829	1,815	606	5,808	8,585
13年	36,952	14,869	8,304	2,317	1,189	900	1,758	1,615	525	5,626	8,153
14年	36,347	14,649	8,090	2,207	1,194	947	1,658	1,618	466	5,674	7,934
15年	36,447	14,670	8,365	2,294	1,226	1,002	1,709	1,682	452	5,481	7,931
16年	35,280	14,190	8,170	2,210	1,333	798	1,675	1,739	415	5,192	7,728
			転入超過数								
平成11年	7,958	4,720	1,413	571	113	50	616	383	6	2,175	2,476
12年	9,544	4,867	662	144	39	187	460	337	53	2,392	2,947
13年	11,837	5,914	214	36	89	26	399	68	102	2,781	3,356
14年	11,842	5,916	62	161	144	17	218	235	193	2,439	3,425
15年	12,790	6,231	194	187	63	80	347	208	191	2,979	3,774
16年	10,836	4,813	11	302	8	129	420	266	258	2,678	3,334

注：1) 函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市及び苫小牧市。 2) 当別町、新篠津村、厚田村及び浜益村。 3) 函館市合併（平成16年12月1日）前の戸井町、恵山町、榎法華村、南茅部町を含む。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

## 5. 各区の人口動態

平成16年中の人口増加は、中央区が3,379人で最も多い(第5、6表)

平成16年中の人口増加を区別にみると、中央区が3,379人で最も多く、以下、北区が1,973人、西区が1,624人、豊平区が1,006人、東区が855人、白石区が620人、清田区が451人、厚別区が129人となった。一方、南区はマイナス1,210人、手稲区はマイナス79人となっており、手稲区は初めて減少となった。

人口増加を自然増加と社会増加に区分してみると、自然増加は南区を除いた9区で増加を示している。また、社会増加は厚別区、南区及び手稲区で減少しているものの、他の7区では増加しており、特に中央区の増加が目立っている。

自然増加、社会増加がともに増加を示した7区について、自然増加と社会増加の規模を比較すると、自然増加が社会増加を上回っている区は東区及び白石区の2区であり、その他の5区は社会増加が自然増加を上回っている。また、社会増加が減少している3区のうち、厚別区は自然増加の規模が社会減少の規模を上回っているため人口は増加している。

区間移動による人口増加を区別にみると、中央区、北区、清田区及び西区の4区で転入超過となった。北区では中央区を除く他の8区に対して転入超過となっており、特に東区からの転入超過が535人で規模が大きくなっている。一方、東区、白石区、厚別区、豊平区、南区及び手稲区の6区では転出超過となった。南区は他の9区に対して全て転出超過となっており、白石区では南区を除く他の8区に対して転出超過となっている。

### 第5表 各区の人口動態

住民基本台帳による。

平成16年中

区	人口増加	自然動態			社会動態				
		自然増加	出生	死亡	社会増加	市外との移動による増加	区間移動による増加	職権等増減	
全市	8,748	2,336	14,750	12,414	6,412	6,506	-	94	
中央区	3,379	2	1,452	1,450	3,377	2,077	1,327	27	
北区	1,973	191	2,042	1,851	1,782	998	936	152	
東区	855	625	2,309	1,684	230	828	528	70	
白石区	620	546	1,884	1,338	74	783	751	42	
厚別区	129	227	978	751	98	75	33	10	
豊平区	1,006	474	1,780	1,306	532	811	330	51	
清田区	451	93	729	636	358	78	262	18	
南区	1,210	182	957	1,139	1,028	163	835	30	
西区	1,624	326	1,729	1,403	1,298	1,033	216	49	
手稲区	79	34	890	856	113	136	264	15	

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

### 第6表 前住地別区間転入超過状況

住民基本台帳による。

平成16年中

前住地	転入地										
	全市	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区
全市	-	1,327	936	528	751	33	330	262	835	216	264
中央区	1,327	-	259	227	241	116	20	51	265	15	203
北区	936	259	-	535	130	2	76	71	68	158	155
東区	528	227	535	-	80	41	193	5	53	104	58
白石区	751	241	130	80	-	70	26	94	73	153	30
厚別区	33	116	2	41	70	-	61	3	37	5	10
豊平区	330	20	76	193	26	61	-	212	195	146	5
清田区	262	51	71	5	94	3	212	-	65	2	9
南区	835	265	68	53	73	37	195	65	-	45	34
西区	216	15	158	104	153	5	146	2	45	-	82
手稲区	264	203	155	58	30	10	5	9	34	82	-

<資料> 企画調整局企画部企画調査課